

竹の子川柳会

あせをかくじわりじわりとでてきます
小一 みるく
おこられてじわりなみだがでてきたよ
小一 勇斗
部屋の物きれいにすればいい気持ち
小二 心春
夜空見てきれいと指で星をさす
小三 翔太
ぼくの指わに作れるぞすごいだろ
小三 太清
捨てられたペットも心で泣くんだよ
小六 清也
名前には意味や思いがこもってる
中一 海斗
ピンポンと足音なった子どもたち
中一 海士
部活中きれいな音色響いてる
中二 ななみ
虹かかるいつもと同じ通学路
高一 ちひろ
化粧してきれいになって出かけよう
高一 瑠依
プロポーズする時指輪あげるんだ
高二 沙耶

わがまち自慢百景「興野々橋」



大正12年に完成した興野々地区と出目地区を結ぶ興野々橋(幅2.8m、延長90m)は、町内で最も古い鉄筋コンクリート橋。構桁は曲線を入れてモダンな印象を与え、橋脚に空間があるなど、現代的なデザインになっています。また、この橋が完成した年に関東大震災が発生。東京ではこれを機に不燃橋梁が多く建設されましたが、地方においてそれが普及したのは昭和5年以降であったため、興野々橋の建設は地方としては非常に早い時期に架設されたといえます。

国道320号の開通に伴い、主要道路としての役割は譲りましたが、地元住民にとっては欠かせない貴重な橋です。

鬼北の足跡を辿る【第5回】

「機能重視の祈りの空間―庭園跡―」

今回は、寺院の中核と伝わる平坦部Aで見つかった庭園跡を取り上げます。

中世等妙寺の中核、平坦部A本堂南側に位置する滝や池、池状遺構などからなる庭園跡の発掘調査を平成29年度より実施しています。

発掘調査を開始した頃は、掘っても掘っても礫(石)が出てきて、「これが庭園の遺構を構成している石で、どれが流れた石なのかわからない」状態で、頭を悩ませる毎日でした。最小限の発掘調査で多くの成果を挙げられるに越したことはないのですが、毎回思い通りにいくとも限りません。当然のことながら一度掘ってしまった遺跡は元には戻らず、それゆえ発掘という遺跡にメスを入れる行為には責任と緊張が伴うのです。そうした状況で調査を進めていくと、礫層の中から江戸時代の陶磁器が見つかり、中世等妙寺より新しい時期の堆積であることが分かりました。どうやら中世等妙寺廃絶後に、庭園脇を流れる谷川のオーバーフロー(氾濫)が何度も引き起こされたようで、中世等妙寺最終遺構面を礫層が厚く覆っていたという説明ができるようになりました。



発掘調査の進む庭園の滝・池の様子